

全学連通信

No.7

1968
9.26

東京教育大学
全学連発行

音頭の時全學総決起集会へ結集し試験阻止へ前進せよ！

ヘ理ストの内実を強化し、全學長期ストをめざし突き進もう！

二十一日以来のストに引き続き、十日間のストライキ斗争の中核となるべく斗っている理学部筑波移転斗争委員会より、全學の斗争学友に対し連帶のアピールを送る。

昨日の学生大会は、六百余名の結果をもって庄重的にスト続行を決定した。だが、その内実は、怒りの火元を脱し得ないものであり、理論に完全には裏打ちされていないものなのだ。我々は、筑波審議の非民主制に対する怒りから決別し、明確に筑波移転との対し、自らの全存在と全理论をかけて戦決しなければならない。まさに中教審議の実質化であり、政府独占のベテロニーが実現されるものなのだ。調査費計上級回を実現し、全筑波移転審議過程の逆流れにして全学ストを打おう、筑波移転粉碎の日まで斗争へ、理学系の中核として、理学のすべての学友は筑波に結集せよ！

△筑波学生に学友三十六名結集、ヨハ因美、56名に譲渡△

文理友の先進的斗争に呼応して、早急に斗争体制確立を勝ち取るべく教学生大会は36名の学友の庄重的結集をもって成立した。内容について述べるならば、斗争とのちの区別を定して本館封鎖解除を主張する右翼的部分と一定に、こうした意図に依拠し、文自斗学友の斗争を孤立させようとする執行部系諸君の煽動によって、我々の提起した

スト方針は瓦解された。しかしながら執行部の指団の限界性を明白につかみ、その框架を突破して斗争を進むことには裏打ちされていないものなのだ。太巾に躍進したという二点をまず報告したい。我々は、28日学生大会で断固としてスト突入を実現させる決意である。

△文理部 学生大会 三百名の斗争部隊を確立！△

△文理部 学生大会は延べ八百名近くの庄重的多数の学友の参加をもって勝ち取られ、これまでの斗争路線を断固防衛し、試験阻止実現をめざし更に斗争を前進させることが確認された。一部学友諸君の「今、本館封鎖解除」という方針の誤りは多くの学友によって、完璧なまま指摘され、該案支持三〇一名という大衆的力の前に粉砕された。今や90日を経た文斗委の斗争は他学部のスト実行への決起をうながし、全学ストへ向けてますぐ前に前進しつづける。クラスを基準とした着実な運動とりうものが、中教審議粉碎を内実とした筑波移転阻止、斗争を廣間に担い、これまでの教務会自治を中心とした大學秩序そのものを打破していくのである。我々は新たに石器を打ち立てるといふ内実をもつてこの斗争を勝利させねばならぬ。

△文理農 三月頭のストを司徒す、△

△農業部学生大会も多くの学友の手によって勝ち取られ、調査方針と封鎖を認めたはストは行なわないという金ラインチキ矢針を最後に出したが、多数の意図が立てたのである。

△バリケードを立てる△
△文理農 三月頭のストが開幕した。われは更に全學スケーリングを取っていくので、E館のW館のバリケード正面に倒すれば倒すほどはなるまい。△
△意図を生み出しつづめる大学当局を重いつめ、NPOを解散し、土地確権実行自歎撤回を断固として実現して、△
△全學生への中庸を我々の運動実体をもつて確実化して、△
△教育大のすべての争を語り、斗争の勝利へ向まで金南交渉群と共に走りぬこうと曰ふが、△